

# 医療機器 国内生産体制を

### 3拠点に新工場

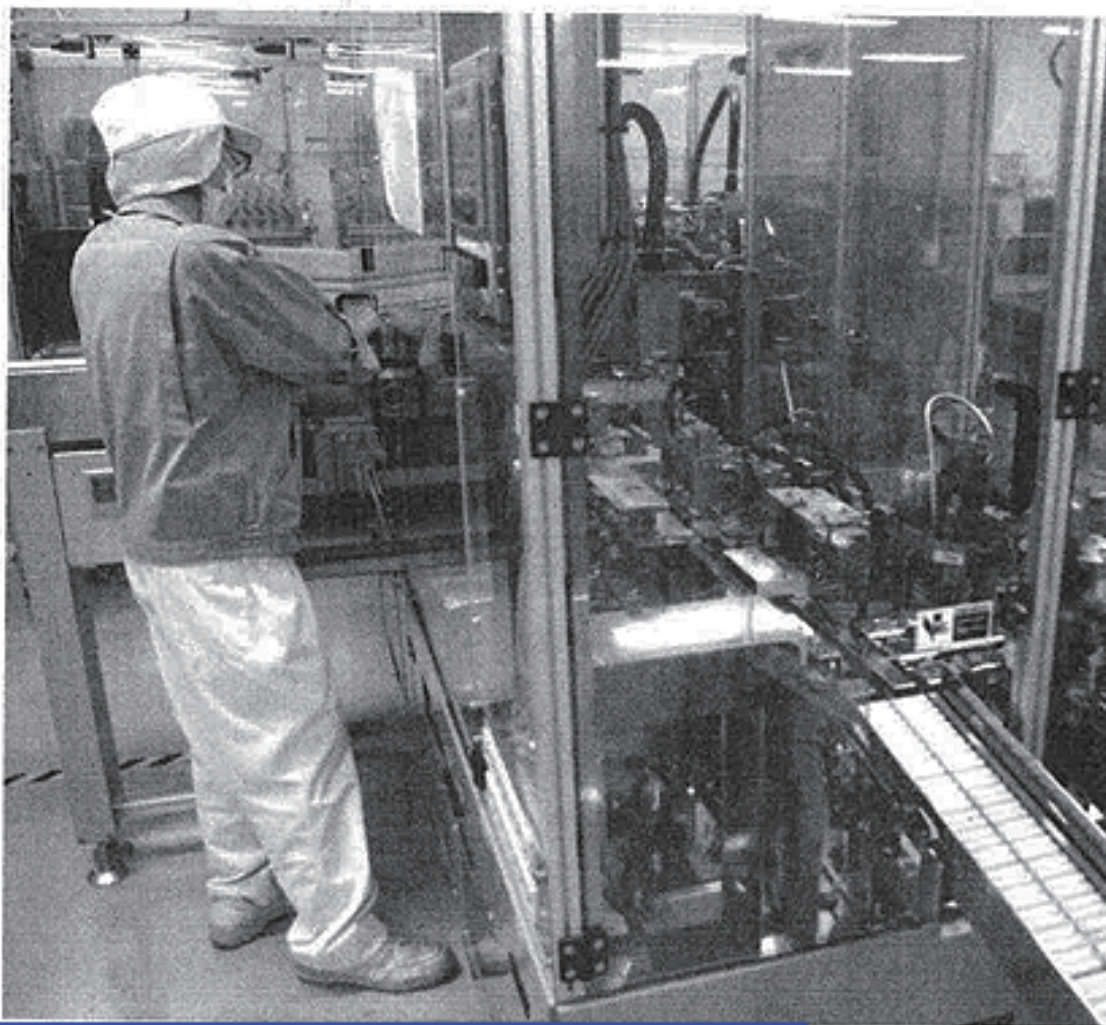
オリンパスは2015年、世界シェア7割を握る消化器内視鏡システムを国内で増産する。青森工場（青森県黒石市）、会津工場（福島県会津若松市）、白河工場（同県白河市）の主要3拠点をそれぞれ新工場棟を建設。青森工場は処置具、会津工場はスコップ、白河工場はビデオプロセッサや光源装置を手がける。体内に挿入する消化器内視鏡システムは特に高い品質管理が求められるため、全量を国内で生産し続けている。

## マザー工場化海外と住み分け

月から新棟が本格稼働し、生産能力は現状比5割増となる見通し。白河工場では隣接地にあった部品集中購買センターも新棟内に移設する。オリパスは同センターで部品を一括調達し各工場に配送している。隣接地にありながら白河工場にも1日にトラックが何便も往復し部品を届けていた。白河オリンパスの木村伸二社長は「工場内に移設することで生産リードタイムを大幅に短縮できる」と狙いを明かす。

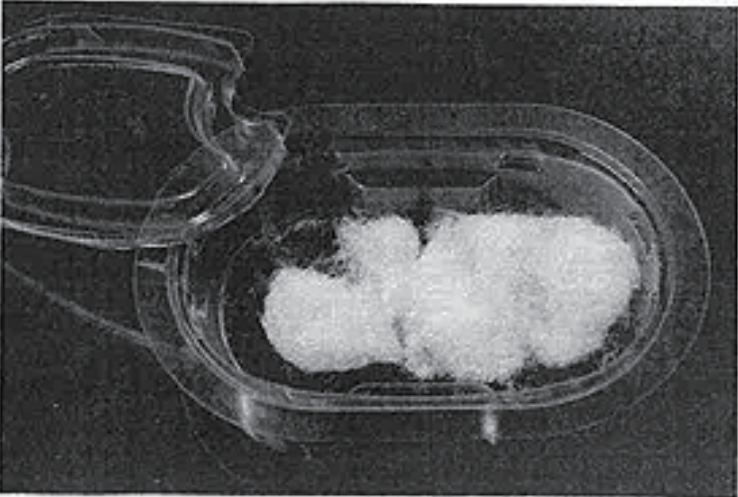
消化器内視鏡システムは稼働に伴い再度内製化しコスト削減を図る。需要が急増する1日使い捨てのコンタクトレンズの同社の国内シェアは現在約10%。15年は国内2位の15%を目指している。東南アジアを中心に海外展開も進めており、鴻巣研究所で生産する高品質な日本製コンタクトレンズを海外に売り込んでいく。

高機能のカテーテルなどは国内生産にこだわる。これまではカテーテルを量産していた静岡県・愛鷹や心電計、自動体外式除細動器（AED）、血球計数機などを生産していたが、それらを新工場に集約する。総合技術開発センターも埼玉県所沢市1ター新製装置（AED）は国内生産にこだわる。これまではカテーテルを量産していた静岡県・愛鷹や心電計、自動体外式除細動器（AED）、血球計数機などを生産していたが、それらを新工場に集約する。総合技術開発センターも埼玉県所沢市1ター新製装置（AED）は国内生産にこだわる。



コンタクトレンズを増産するシードの鴻巣研究所

## ヘルスケア



オルソリパースが米国に投入する人工骨充填材

## ベンチャー企業 事業拡大へ布石

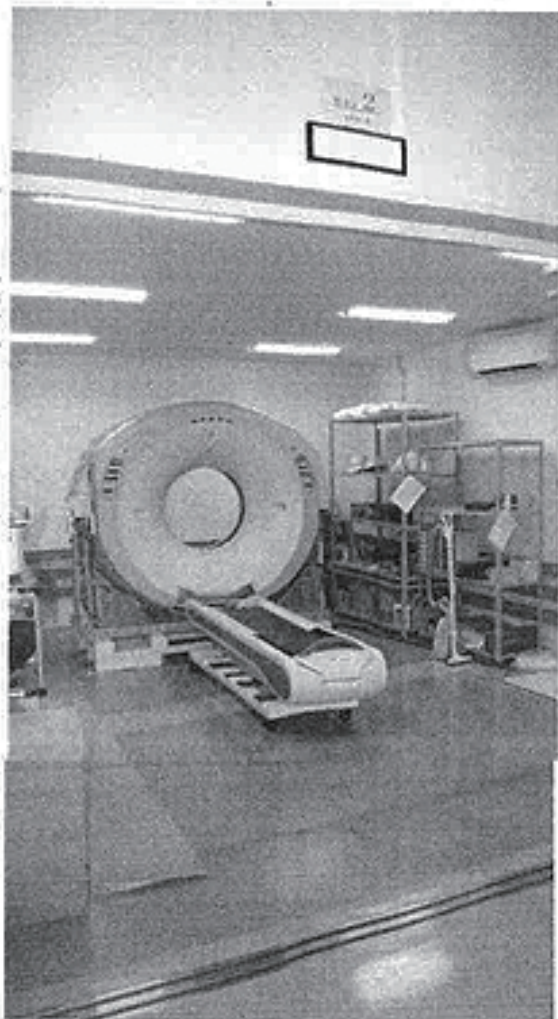
規制改革で活発化  
日本では従来の薬事法

が改正され、医薬品・医療機器等法が14年11月に施行された。これまでは審査承認に長い時間と手間がかかり、企業にとって大きな負担になっていた。審査時間の短縮と手続の簡素化など規制改革によって国内医療機器産業は一層活発化する。期待されている。特にこれまで少なかった医療機器のベンチャー企業が増えることで産業規模は大きく広がっていく。

11年に創業したオルソリパース（横浜市都筑区）は1月から米国で人工骨充填材「レボリス」の販売を始める。外傷向け人工骨として米国食品医薬品局（FDA）の認可を取得し、欧州での販売準備を進めている。レボリスは綿形状の充填材だ。

西川靖俊オルソリパース社長は「日本発・世界初の技術で世界市場に挑む」と意気込み、欧米での販売拡大に伴い、国内では研究開発を強化する。人工骨挿入用の手術機器のほか、「レボリス」の技術を軟骨細胞の培養の足場材として応用するなど再生医療分野での事業展開も検討」（西川社長）している。

それらを研究開発していく拠点を沖縄県うるま市に2月に開設する計画だ。



東芝メディカルシステムズのCT再生工場

## 分散開発拠点を集約

本社・那須事業所は画像診断機器のマザー工場として機能させる。那須事業所では国内の医療機関が使用していたCTを再生し、新興国に投入するCTリサイクル事業といった新しい取り組みも始めている。交換が必要パーツを新品と取り換え、メーカー品質保証を付与した再生品として出荷。日本で再生産したハイエンド機種を低価格で提供し、CTの新規ユーザーを新興国で広げていく。